

小説の地の文の語尾

泉鏡花作

明治四十二年四月

私は「だ」より「である」と言つた方が小説の地の文としていゝと思ひます。勿論場合にもよりませうが「だ」と言ふのは讀者に對して失禮です。「である」と言つた方がいゝやうですね。(話)